



課題研究「現代を描く新年の風物」

添削・選評 玄武洞

今回の課題は、「現代を描く新年の風物」。前回にも記したが、あくまで拘りたいたのは、「今」を捉えること。

川柳二五〇年の歴史の中で、新年を描いた上手い句、良い句は山のようにある。これと対決するには、「今」が描き出されない平凡なテーマだと、その句は呑み込まれてしまう。

テーマ別に具体的な作品を見ながら検証してみよう。

【元旦・三が日・新年】

- 1 元旦の空一すじの白い雲
 - 2 元日の旗ひらめかせバス無人
 - 3 三ヶ日テレビが家族の守りをする
 - 4 新年の共犯ぼくとテレビジョン
- 1は、綺麗な句。新しい心で望んだ新しい年。見上げれば真っ青な空に雲が一つ。風景を通じて新たな気分が伝わる。しかし、これは、昨日今日のものではなく、直接に人事を描いていない分、俳句

的な気分がつよい。「元日の」を「元日や」と強い切れ字に代えれば、まさに俳句的。

2は、「無人バス」に作者の態度が感じられる。「元日の」という上五に切れを置いて読むと、国家を象徴する日の丸をはためかせながら「無人」バスが行くという風刺的作品になる。この場合、「の」が軽い切れ字の役割を果す。

3、4は、同想だが、「今」を意識した作品として面白い。惜しいのは3の中八表現である。「が」などという助詞を省略し「ニケ日 テレビ家族の守りをする」とでもすればキリツとした。その点4の方が形式的に整っていてこちらに軍配。また「ぼくと」という自嘲的表現によって共感を誘うサラ川の親近感がある。

【うさぎ年】

5 うさぎ年今年は天まで跳ぶ覚悟
6 ミサイルに備えウサギの耳を立て
今年の千支の読込み。ここでも5の中八が気になる。どうしても中八でしか表現できないのならそれも可だが、「うさぎ年」と「今年」はダブった表現であり、「うさぎ年 今朝は天まで跳ぶ覚悟」とでもすれば、元朝の決意のように描ける。
また、6の方がうさぎに時世を感じる。

【除夜】

7 除夜の鐘終わりの前に灯り消す
8 百人の悩みを流すツイッター
除夜も新年と関連は深い。7は、全く個人的事象でテーマ吟としては不向き。
8が面白い。新年を迎えるにあたりツイ

ツターで煩惱や悩みを「流す」という発想が愉快で新しい。

【食べ物】

- 9 お雑煮が口に合わない妻の郷
 - 10 嫌なこと鍋で煮込んで食べちゃおう
 - 11 変な草食品売り場に出ているよ
 - 9 は、よく聞く雑煮の地域による習俗の違いを言ったもので平凡を出ない。10は、面白いけど特に新年とは無関係。「変な草」とは、新人類にとつては……ということで七草を読んだものだろう。言いたいことが十七音で言い切れていない。
- 【初詣】
- 12 誤字の絵馬とても合格おぼつかぬ
 - 13 七福神巡つてあの世のパスポート
 - 14 就職が決まりし氏子らに屠蘇をつぐ

- 15 十円で願いの多い初詣
 - 16 初詣貧乏神は何祈
 - 17 振袖の娘を探し神宮へ
 - 18 大吉を持つて帰るか結ぼうか
- 一応12、15は整った句であるが、既に同想は少なからずある。13の内容はいい。高齢化社会の一端が垣間見える。が、何としても形式が悪い。中人は、推敲を尽くした果てに許されるもの。「七福神巡りあの世のパスポート」とすれば、上六の煩さは免れよう。14の中9音は、いかにも長い。また「決まりし」という文語も硬い。「就活を終え氏子らに屠蘇が笑み」のように「就活」の流行語や「笑み」といった心理を加えると、時代と共に作者の心が句に乗せられる。16、17は、作者

の言いたいことがやや曖昧。18は、新年に限らない風俗。

【お年玉】

19 お年玉楽しみに待つ大学生

20 仕分けしてそつと手渡すお年玉

19には、多少の風刺があるが弱い。昨近の大学生は、もはや自立した存在であることが薄れている。20の「仕分け」は、ちよつと新しいが、このレベルだと、オリックスのマネー川柳の「お年玉」に埋もれてしまう。

【年賀状】

21 書初めの手本を探す年賀状

22 達筆さ競い合うのか年賀状

23 天地人つけられないぞ宛名書き

24 賀状より年賀メールが早く着き

25 年賀状減ってメールでご挨拶

26 元カレも独身ですと年賀状

多く作られた割には、想が広がらない感じ。21から23は、賀状の達筆をテーマにしたものだが、「今」との関わりが薄い。24、25は、メールという現代のツールを描いてはいるが、しごく当然という切り口。26のみが、現代社会の「不婚」を暗示し、人情も背景に感じられる作品となっている。

【雑事】

27 めでたきは成人式の無礼講

28 寒空の凧を操る昭和の手

29 双六の上がりに夢のない世代

30 お手つきは三文安の歌留多取

31 羽子板をしくじりバツがまた増える

- 32 3D眼鏡でのぞく鏡モチ
- 33 門松もお飾りもみな紙になり
- 34 コンベアにどんど焼きが消えて行く
- 35 どんど焼きできぬ区域で風邪を引き
- 36 愛犬についていけない走り初め
- 37 マニフェスト掲げて初日のぼりくる
- 38 振袖を着て大股で歩くギャル
- 39 大人にはなりたくないが晴れ着好き
- 40 ぱちぱちと愚痴が暖炉ではぜている
- 40 以外は、傍線が新年と関連した事象として描かれている。27において「めでたきは」とわざわざ文語調で表現されているのには、強調の意味があるのだろうか。その割には、「成人式↓無礼講」にひねりが無い。28の「昭和の手」には、感傷がある。惜しむらくは、安直に「寒空

の」としてしまったこと。ここに、「今」を想起させる「空」が描かれていたら秀逸になったろう。29には、多少「現代」が感じられる。30、31は、単なる失敗の描写。たとえば、31の場合「羽子板も私もバツがついた新春^{はる}」のように描けば、多少の人情がみえてくる。32、33には、風刺が感じられる。34、35は報告調で訴えかけるものが少ない。36に「今」は無いが、川柳として作者の心情がよき感じられる。37は、やや安直な流行語を用いた作品だが、全体の中では、やはり「マニフェスト」の語により新しさがある。38には過去の同想がありそう。39は、作者の個人的な意思が強く、創作ならよいが、テーマ吟では難しいだろう。さて、

課題 「現代を描く冬の風物」

元カレも独身ですと年賀状

きいろつく

*

新年の共犯ぼくとテレビジョン 飯島章友
百八の悩みを流すツイッター 浦田栄七
寒空の凧を操る昭和の手 高齋ゆみこ

*

双六の上がりに夢のない世代 右田素人
ミサイクルに備えウサギの耳を立て 準 菜
3D眼鏡でのぞく鏡モチ 今々爺
元日の旗ひらめかせバス無人 高齋ゆみこ
愛犬についていけない走り初め 青山 南
マニフェスト掲げて初日のほりくる飯島章友

第8回 大野風柳賞作品募集

雑詠 5句（未発表作品）

審査 大野 風柳

—— 審査方法 ——

※ 選句は記名選とします。

※ 五句一組として総合力で賞を決めます。

※ 但し集句をまとめて、特選句3句、秀逸句10句、

佳作100余句を選んで発表します。

—— 発表 ——

※ 大野風柳賞1名（受賞作品のミニ句碑・賞状・表彰式交通宿泊費）、準賞3名（大野風柳表装半切作品・賞状・副賞1万円）、奨励賞7名（大野風柳色紙作品額付・賞状）を表彰します。

※ 7月3日（日）の柳都全国川柳大会席上にて表彰します。

※ 投句は、4月25日消印有効で10000円小為替同封で956-8811新津局私書箱15号 柳都川柳社宛（全員に記念品呈）発表誌「柳都」6月号希望の方は5000円加算のこと。投句用紙は自由。